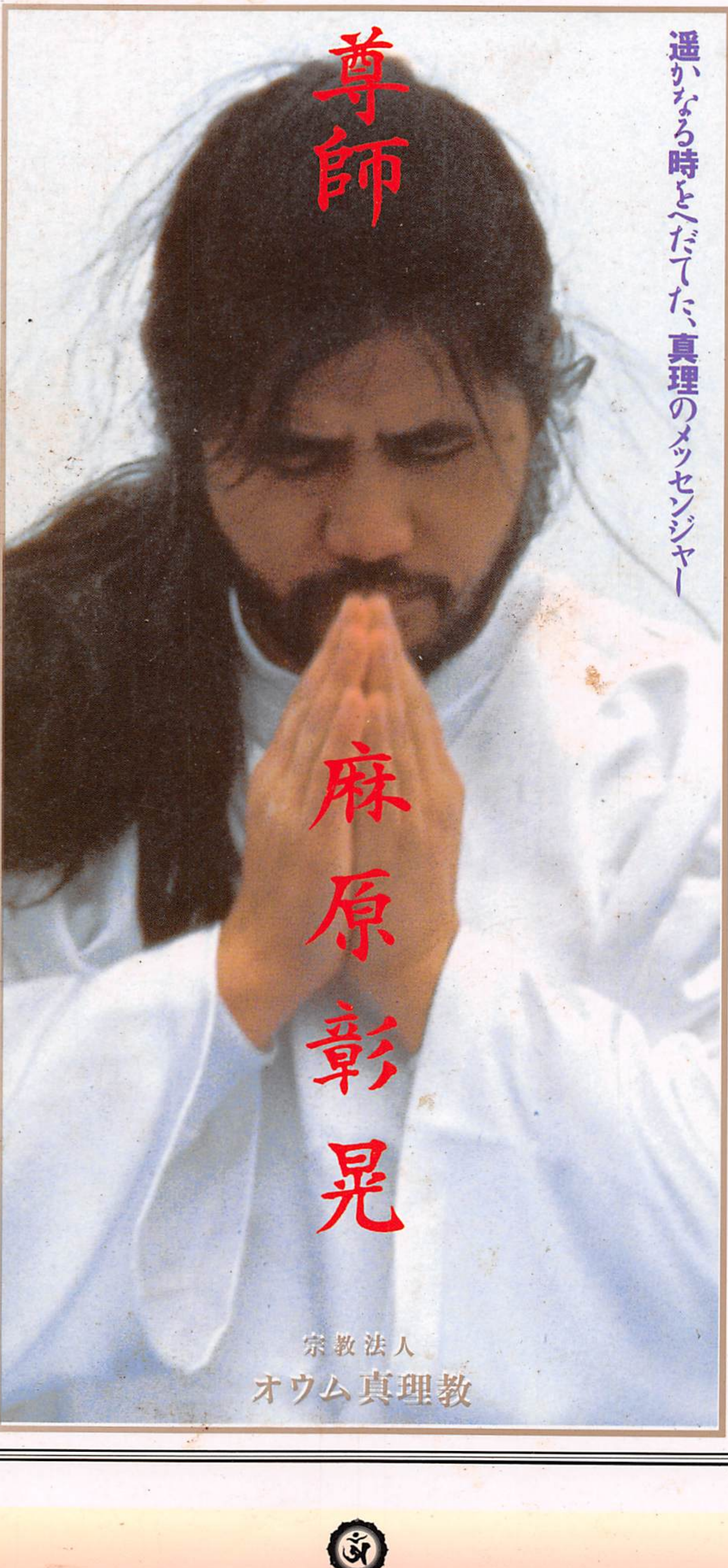
AUM
SHINRIKYO



尊師 麻原彰晃

遥かなる時をへだてた、真理のメッセンジャー

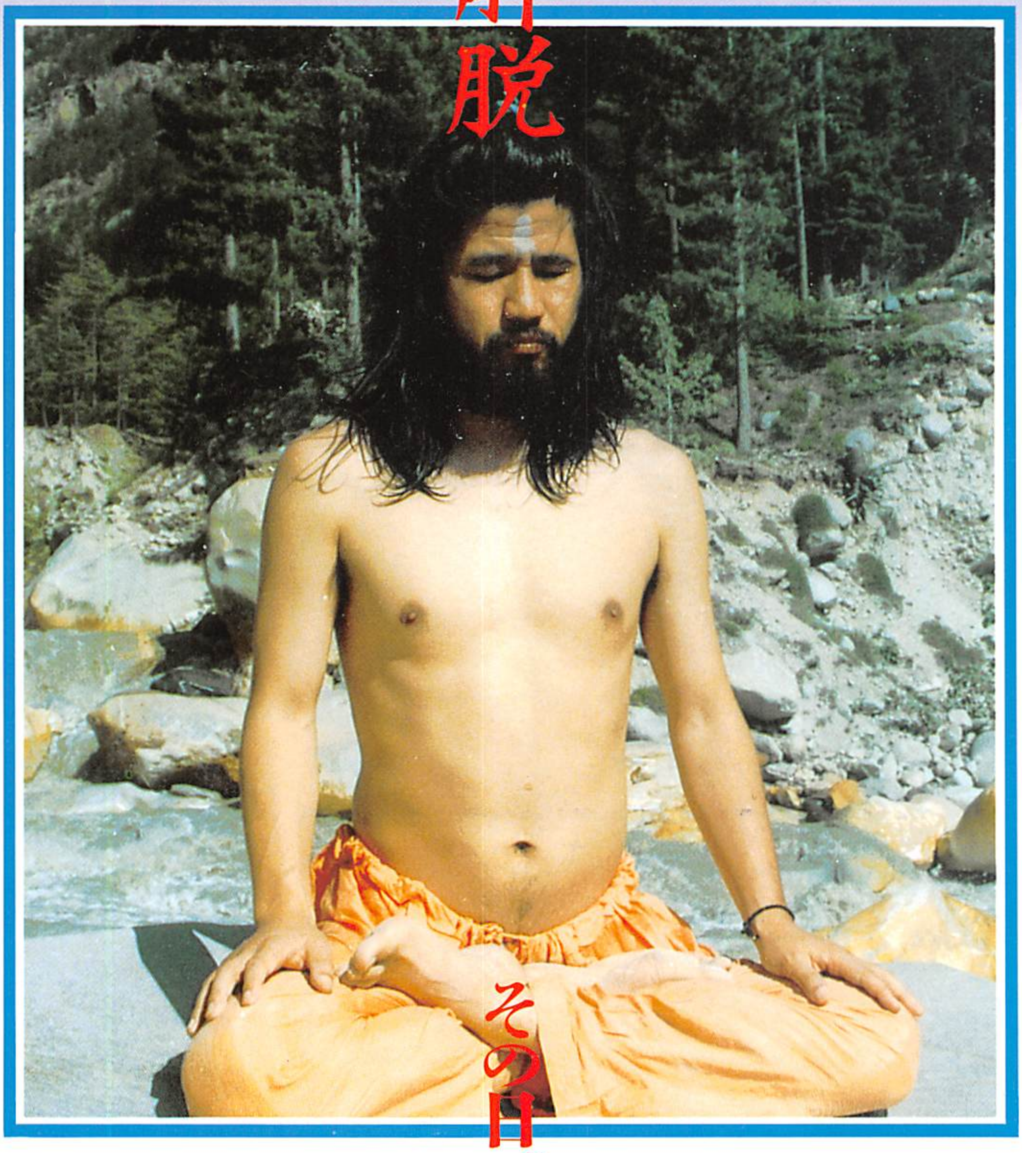
宗教法人
オウム真理教





願わくば、すべての魂がマハー・ニルヴァーナに入るまで
シヴァ大神の僕として救済活動をし
マハー・ニルヴァーナへ入る最後の魂とならんことを――

最終解脱



その日、天は歓喜し、地は震えた。



八六年夏、ヒマラヤ。一つの魂のもとに、光が降り立ちました。崇高なる覚醒(かくせい)が生じたのです。その瞬間、すべての苦悩は滅し、生と死の壁は破られ、絶対の自由と幸福、二度と壊れることのない至福の状態が訪れました。偉大なる、完全なる、絶対なるシヴァ大神の祝福を受けて……。

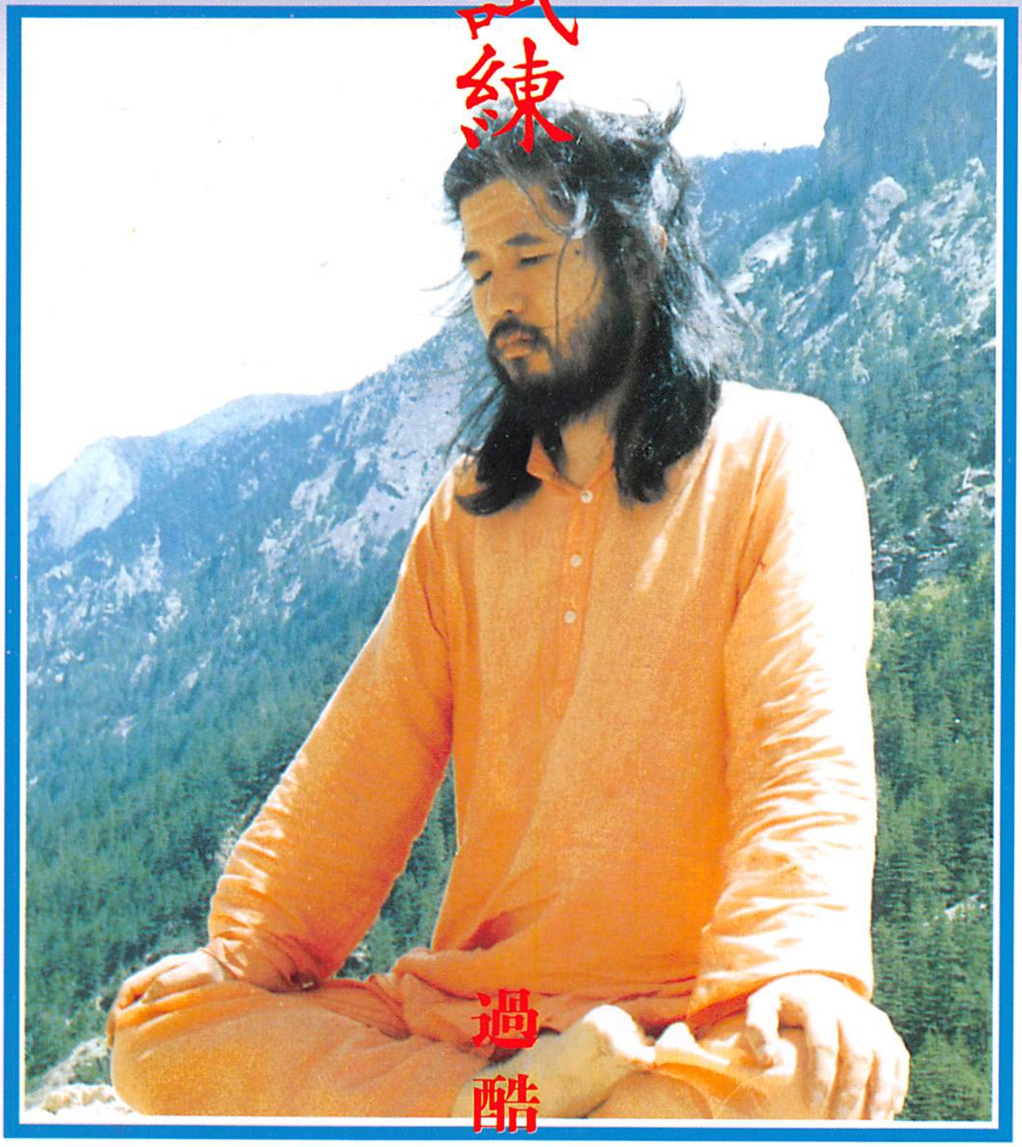
最終解脱——人類が願ってやまない魂の究極の境地。これまで、いかなる日本人もなし得なかった初めての偉業がここに達成されたのです。

◆

麻原彰晃尊師——〝今世紀最後の救世主〟はこうして誕生なさったのです……。



苦悩・試練



過酷な解脱までの道のり

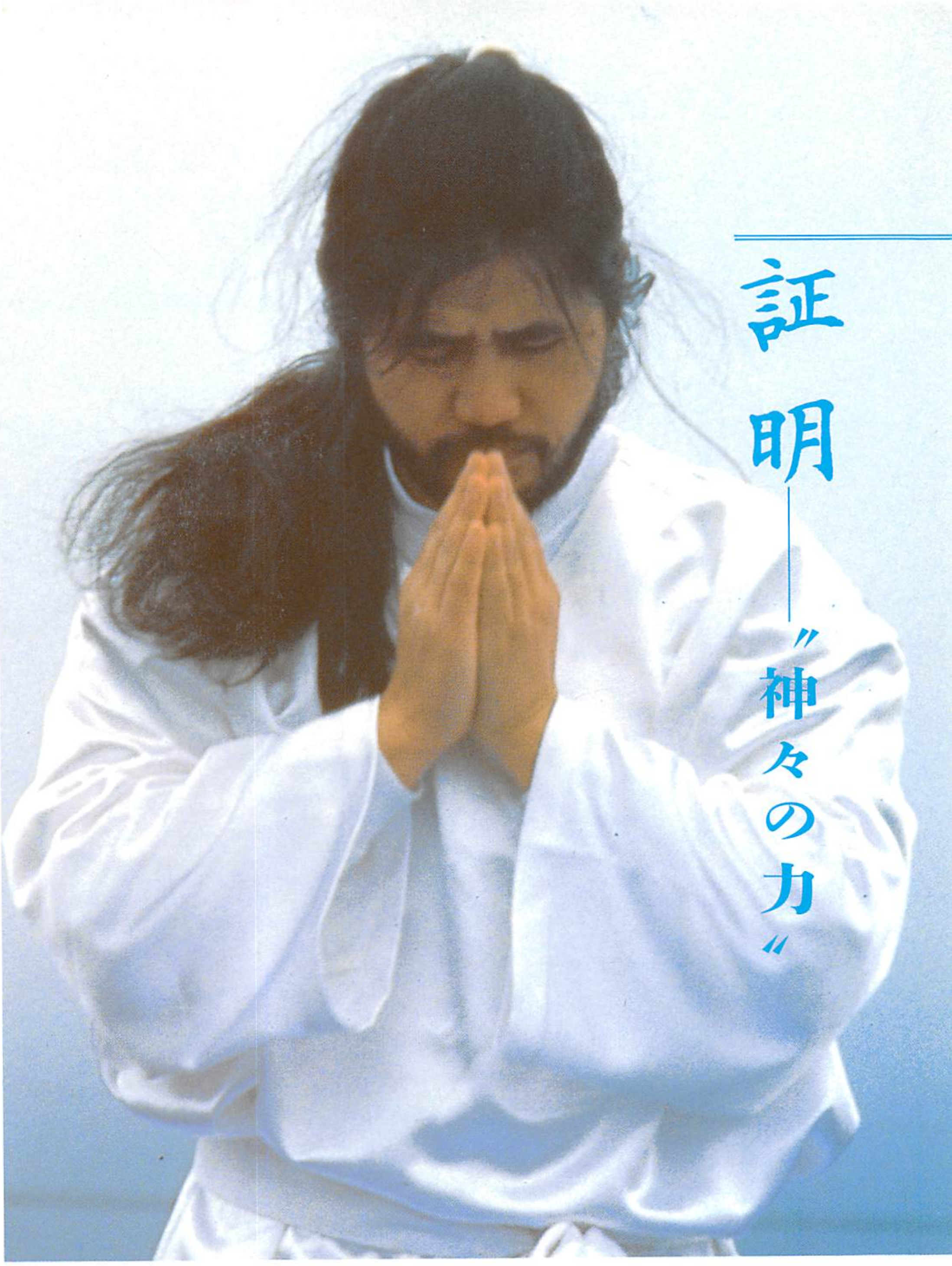
「生きていくって、何てつらいんだろう。」——ふと立ち止まっては、こんなことを思う。仕事がうまくいかない、生活が苦しい、現実に直面して夢破れる、失恋、孤独……さらには逃れられない老い、病、そして死。どうしてこんなに苦しみが多いのだろう。まるで苦しむために生まれてきたみたいじゃないか……。（『生死を超える』より）

◆

仏教の開祖、覚者サキャ神賢（釈迦牟尼）が生の無常性を感じ、厳しい修行の道に入ったことは有名な話です。時と所こそ違え、麻原彰晃尊師の宗教的実践もまさにこの無常とそこから生起する苦悩という、人生の根本的な課題からの出離を目指して始められました。

しかし、高度に発達した物質社会の中で、指導者を持たず「真の幸福」を探すことは容易なことではありませんでした。普通ならば、妥協し、自分をごまかしながら生きるところを、尊師はひたすら厳しい修行を重ねていかれたのです。

そして、ついに訪れた最終の解脱と悟り。それは、尊師が過酷な修行の道を歩み出されてから八年の歳月が過ぎようとしていたときでした。あの覚者サキャ神賢が到達した境地に、尊師ご自身も立たれることとなったのです。



証明——"神々の力"

八八年春、尊師は解脱者の真の力を証明するために、富士山総本部道場において「水中エアータイト・サマディ」を敢行されました。これは、仏典にも記述のある三昧（サマディ）——心臓・呼吸が長時間にわたって停止するという究極の瞑想状態——という神通力の存在を実証するものだったのです。

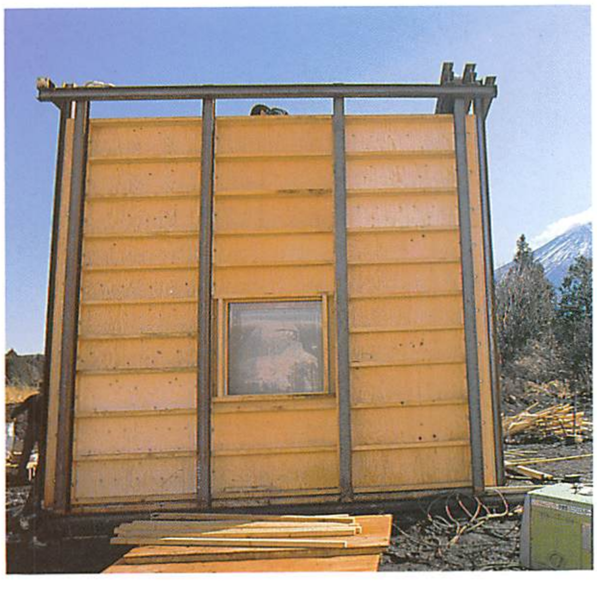
このサマディは、三月、五月と合計三回にわたって行なわれ、科学的な計測機器と二重水槽を使った完全密閉空間の中で、尊師はお体が万全ではなかったにもかかわらず、いにしえの聖者と同じように数度にわたって長時間のサマディに入られ、真の解脱者の証明を成し遂げられたのです。

また、尊師と共にサマディに臨んだ弟子のマハー・ケイマ正大師は、連続十一時間以上の呼吸停止という常識を完全に覆す奇跡を現わされました。それは仏典で、覚者サキャ神賢（釈迦牟尼）の弟子マハー・モッガラーナが神通を現わし、サキャ神賢の真理を証明した故事を文字どおり再現するものだったのです。

◆









甦った仏教の真髄

——サキャ神賢の真理を今に

「私は、今まで気付かなかったのだ。何と、釈迦牟尼仏は、後世の修行者のために解脱への修行法を残していたのだった。『縁起の法』がまさにそれだ。……苦労して解脱を果たした途端、この偉大な先哲が何を言いたかったのか理解できたのだった。彼は、必ず解脱できる具体的な修行法を残したつもりだった。が、だれも理解できなかったのだ。」（『生死を超える』より）

◆

尊師の最終解脱は、日本の仏教史上においても大変重要な意味がありました。それは、日本人のだれもが到達し得なかったステージに尊師が立たれたことで、覚者サキャ神賢（釈迦牟尼）が残された解脱の法が解き明かされ、私達のだれもが解脱できる道が開かれたからです。

私達のほとんどが知ったつもりになっている仏教も、日本にはその真髄が伝わらず、儀式化し形骸化しながら今日までサキャ神賢の教えとしてまかり通っていたのです。

厳しい修行の末、尊師が解脱・悟りを体得されたことによって、誤った日本仏教の伝統は終わりを告げたのでした。

仏教の原点を再現

——精力的な仏典研究——

現在サキャ神賢（釈迦牟尼）の直接の言葉を残している経典には、〝パーリ聖典〟と〝アーガマ〟の二つがあります。しかし、日本に伝わっている仏教経典は、翻訳時における技術的ミスもさることながら、自らの修行によって仏教の真髄を経験していない翻訳者の勝手な解釈から、サキャ神賢が説かれた教えとは大きく食い違っているものがほとんどです。

——サキャ神賢の真実の教えを甦(よみがえ)らせたい——

こう願って、麻原尊師は自ら中心となり、〝パーリ聖典〟の原語であるパーリ語からの翻訳に尽力され、十数名のスタッフがかかりきりで膨大な経典群に取り組んでいます。また、麻原尊師は、高僧カムトゥール・リンポチェの協力を得、サキャ神賢の教えを最も忠実に継承しているといわれるチベット仏教の最高の指導者グル・リンポチェの経典の翻訳も行なわれました。

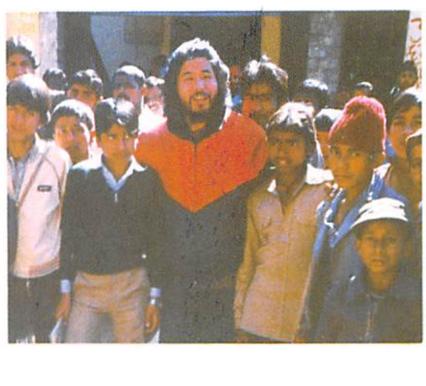
これらの精力的な研究によって、いにしえの覚者の法が、尊師のご著書・説法等を通じて私達の目の前に甦っているのです。

慈愛——最後の救世主として



最終解脱を果たされ、絶対の自由・幸福・歓喜を得られた尊師は、一切の苦悩から解放されました。しかし、尊師の胸には一つの思いが残ったのです。「私の魂は満足しなかった。どう言ったらいいだろうか。つまり、私だけが幸せで、他の人が苦しみの世界にいるということに耐えられなかったんだね。」

一見幸福そうに見える人々も、輪廻転生とカルマの法則という動かし難い宇宙の大原則によって、地獄・餓鬼・動物という苦界への転生を何度も繰り返さなければならない。エゴや煩悩を滅し、輪廻から脱却しなければ、本当の幸福は得られない——この解脱者のみが知る、深遠な真理を背景に、尊師は「衆生済度——すべての魂の救済」という二千五百年前の覚者サキャ神賢（釈迦牟尼）と同じ道を歩み出されたのです。つまり、サキャ神賢の真の法をこの日本に甦らせること——それこそが、尊師がグルと仰がれるマハー・ニルヴァーナ（大涅槃）にいらっしゃるシヴァ大神のご意思だったのです。





説法

——人々を苦悩から解放する真理

仏教も、すべてはサキャ神賢（釈迦牟尼）の一言から始まりました。覚者の口から発せられたその言葉に、人々を苦悩から解放する真理が表わされたのです。

現代に生きるすべての人々のために、尊師も法を説かれ、「救済活動」が始まりました。それは、サキャ神賢と同じ解脱のステージに到達された覚者のみが説ける、実体験に裏付けられた真実の法なのです。しかもそれは、難解な漢語をこねくり回す従来の仏教とは違い、随所に現代的なたとえを引用され、わかりやすく、かつ論理的で、聴く者の心に深い感銘を与え続けているのです。









救済の証——シャクティーパット

尊師の今日に至るまでの救済活動において、忘れてはならないもの、それが「シャクティーパット」です。

シャクティーパットとは、解脱者が相手の体に直接触れ、高次元のエネルギーを移入するという、イニシエーション（秘儀伝授）の中でも最高の部類に属するものです。しかし、このイニシエーションはその素晴らしさの反面、相手のけがれたカルマを背負うため、肉体的・精神的に激しいダメージを受けるのです。

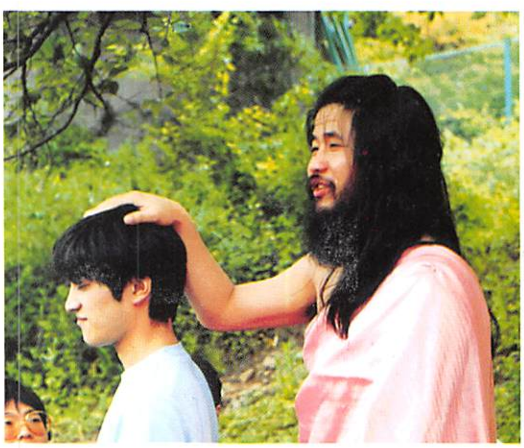
尊師自ら「魂の本質にかかわるような苦痛」と表現されるシャクティーパット。そのために尊師は、何度も死線を越える体験をなさってきました。

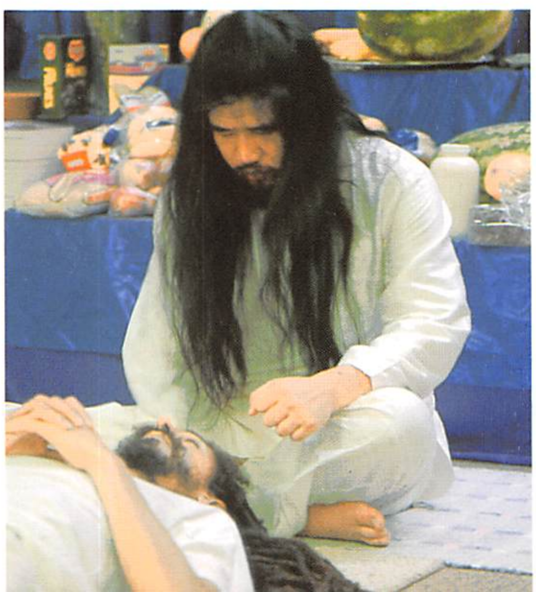
八七年初頭の丹沢集中セミナーでは、急激なエネルギーロスと膨大なカルマを受けて、尊師はお倒れになりました。カルマの浄化は激烈を極め、小康を得たと思われたときでさえ、三九度八分の高熱を発しておられたのです。また、八八年の「最後のシャクティーパット・ツアー」では、三度までも仮死状態に陥られ、抜け出した魂がかろうじて肉体に還るという危険な状態まで経験なさっているのです。

尊師は、このシャクティーパットをあえて行なわれた理由をこう説明なさっています。

「私のこの世での役目は、私と縁のある人達の魂の解脱と悟りを手助けすることだ。その手段として、シャクティーパット等がある。だから、私の肉体がどうなろうと、私は私の役目を全うしなければならないのだ。」

救済者の深い愛に貫かれたイニシエーション。尊師のシャクティーパットは、延べにして八千回を数え、それを受けた多くの弟子達が速やかに解脱・悟りを得ていったのでした。









病苦からの解放

——体を癒す、心を癒す

一億総半病人時代といわれる現代。これはまさに、現代人の病んだ心の現われと言えるでしょう。年々医学は進歩しながらも、病に苦しむ人は後を絶ちません。尊師は、ご自身の長い修行体験から私達を取り巻く宇宙の実相、生命の本質についての深い洞察を得ていらっしゃいます。その仏教理論、カルマの理法、そして解脱・悟りから生じた神秘的な力に基づいて、すべての人々を病苦から解放するための救済活動も進めていらっしゃるのです。

現代医学を超越する試み

尊師は、現代西洋医学を土台とし、さらにインド神秘医学理論（仏教理論や宇宙哲学を取り入れた、『唯心的理論物理学』に基づく医学）、体質改善に大きな効果を持つ、ヒマラヤに伝わる奥儀「クリヤ・ヨーガ」、解脱者の神秘的な力、アストラル世界（異次元）の技術・アストラル次元での病因の除去といった「アストラル医学」などの導入という画期的な医療を提唱されています。

ほとんどすべての現代人が避けては通れない病の苦しみ……尊師は現代医学の壁を破る真の医療を日々探求し続けておられるのです。



チベット医療センター



アストラル世界からの叡智



エネルギーを移入する尊師





宗教から科学・音楽まで——解脱者の智慧と才能

解脱とは、常人を超えた人智の向上と完成を意味します。そこにおいて、人間には最高の智慧・知性・知能が備わるのです。尊師は、この最終解脱者の持つ力を縦横に駆使し、文筆活動から作曲まで自らこなされ、多様化した現代社会の価値観に応じた幅広い救済活動を展開なさっています。それは、既製の宗教の概念を打ち破り、一人でも多くの人に広くわかりやすく、真理を伝えるための尊師の愛の現われなのです。その多方面にわたる驚くべき力は、私達に真理の素晴らしさと修行に対する確信を絶えず訴えるものとなっています。



科学……スーパーコンピュータによるマントラ再現機器、バイオテクノロジーによるイニシエーションの開発など、尊師のアイデアが弟子達の修行を大きく向上させています。



医学……西洋医学、東洋医学、さらには異次元のアストラル医学など、難病根絶のための試案も次々と打ち出されています。



占星術……的確な未来予知を可能とする最奥儀「大宇宙古星学」の開発は特に有名です。

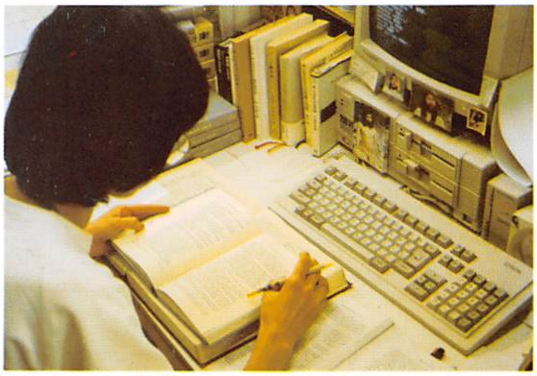


教育……現代教育に失われた智慧を育む教育理論を提唱され、89年の西ドイツ訪問時には、日本とドイツの教育問題を巡って、西ドイツ連邦科学省企画部長エンダーライン氏との会談も行なわれました。

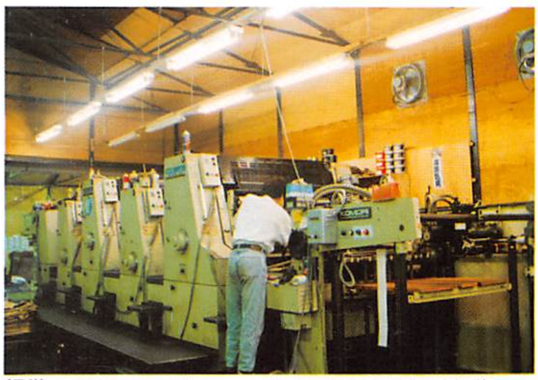




シナリオ・脚本……音楽と舞踊を巧みに使った視聴覚に訴えた救済のイベントにおいては、自らシナリオを書いていらっしゃいます。



翻訳……サキャ神賢（しんけん）の教えに最も忠実とされる『南伝大蔵経』の正確な日本語訳の完成を目指して、翻訳作業にも尽力なさっています。



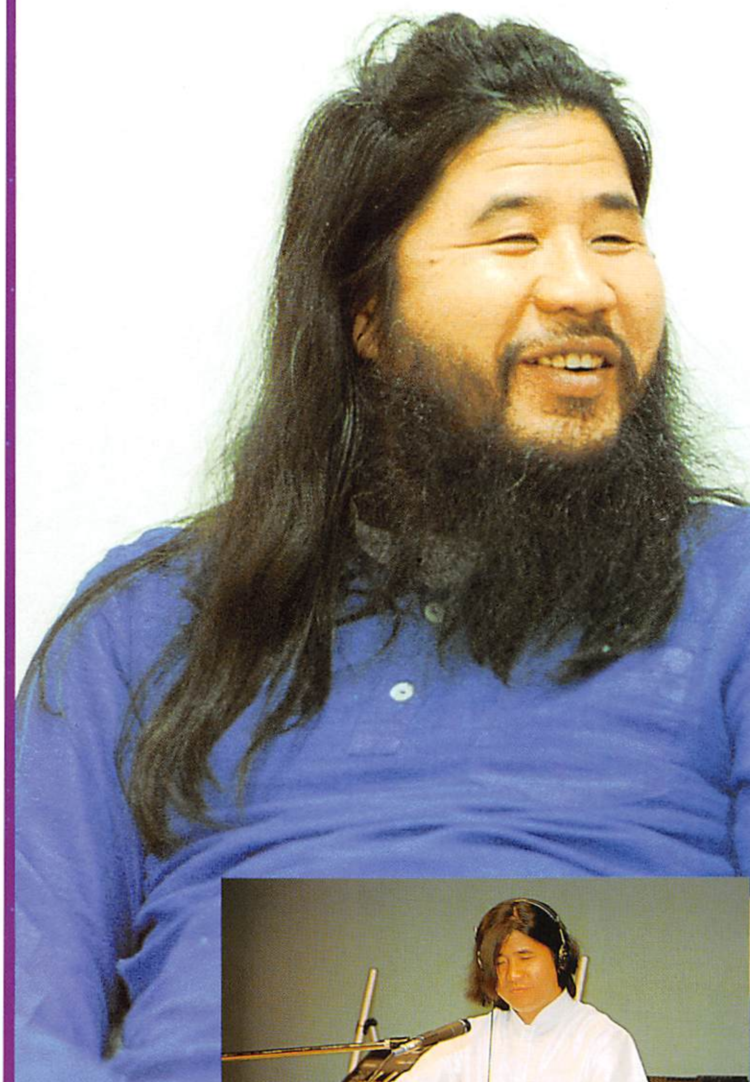
経営……編集から印刷まで、ご自身の著書も含めた出版物の一貫した出版体制づくりなど、修行によって培われた豊かな先見性をもとに、卓越した経営手腕も発揮されています。



国際政治……チベット亡命政府の総帥（そうすい）ダライ・ラマ法王との親交はつとに有名。89年西ドイツでは、ドイツ社会民主党ビューヒラー氏と会談。ドイツの再統一問題、共産主義の将来について意見を交わされています。



文筆……第1作『超能力・秘密の開発法』から『原始仏典講義一』『超越神力PART1』まで、これまでに数々のベストセラー、ロングセラーが世に発表されました。その他にも、監修書として月刊誌『マハーヤーナ』『真理の芽』があります。





音楽……高次元の世界、アストラルで奏でられる神秘の音楽、「アストラル音楽」を瞑想によって引き出し、「アストラルへの旅」「光を超えて」など、数々の名曲を作曲なさっています。



安らぎと触れ合い——各種相談



救済の教団

——オウム真理教



尊師の救済理念を根本として作られ、尊師への絶対の浄信と帰依を誓った人々の集まりである宗教団体、それがシヴァ大神を主宰神とするオウム真理教です。その名「オウム」とは、無常を意味する最も聖なるマントラで、オウム真理教は解脱・悟り、自己開発、現実社会における幸福を願うすべての人々の宗教的実践の場なのです。まさにここで、尊師の法が説かれ、私達を苦悩から解放する貴重な秘儀の数々が伝授され、真の幸福への道が開かれるのです。

国内十六、海外二カ所の各道場では、日々信徒の方々が法を学び、功徳を積み、奉仕に励み、熱心に修行にいそしんでいます。また、定期的に開かれる説法会、「多学の会」も教学・記憶修習に欠かせないものです。さらに、年末年始に行なわれる「狂気の集中修行」、各種「特別イニシエーション」は、信徒の方々の飛躍的な修行の向上をもたらしています。



正法を聴く喜び――満員の尊師説法会



活発に行なわれる奉仕行

多岐にわたる救済活動

●日本シャンバラ化計画

急速に悪化する日本と世界の情勢に鑑み、それに対するオウム真理教の救済活動の展望を表わすものとして「日本シャンバラ化計画」があります。これは、真理に基づいた社会を建設し、より多くの魂が正法にのっとった生活を送り、解脱し、高い世界へ転生することを目的としています。全国主要都市における支部・総本部道場の建設、ロータス・ヴィレッジ（蓮華（れんげ）の村）構想などがその概要として挙げられます。



●オウム真理教附属医院

一人でも多くの方に健康を。近代西洋医学の限界を乗り越える新しい医療を求めて、医師としての経験を持つ弟子達が難病の根治に挑んでいます（東京都中野区野方）。



●「死と転生」――多彩なコンサート活動

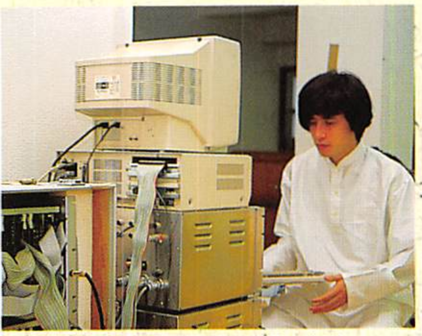
尊師の貴重な瞑想体験を視聴覚的に表現するために、アストラル音楽と舞踏によるコンサート活動が展開されています。91年からスタートしたイベント「死と転生」は、日本で初めて公開される真実の死後の世界を表わしたイニシエーションの一つです。





救済の教団

——オウム真理教



現代科学による神秘世界の究明





一般に日本人は仏教を肉食妻帯と誤解しがちですが、その基本は出家修行にありました。オウム真理教はこの点でも忠実に原始仏教を再現しています。かつて、サキャ神賢(釈迦牟尼)のもとに多くの出家者が集い、真理の実践に励んだように、尊師への絶対的な帰依を誓う者は、日々清浄な戒律を守りつつ、質素な生活の中で自己の煩悩を乗り越えるための厳しい修行に励んでいます。また、自己の解脱・悟りにとどまらず、多岐にわたる尊師の救済活動を推進する役割を担い、科学研究・医療・食品開発・書籍出版・音楽活動・アニメーション制作等の奉仕行にいそしんでいます。時代的差異はあっても、その本質は、いにしえの仏教教団をほうふつとさせるものと言えましょう。



尊師著書・監修書の編集、出版も



総本部道場は出家者の手造り



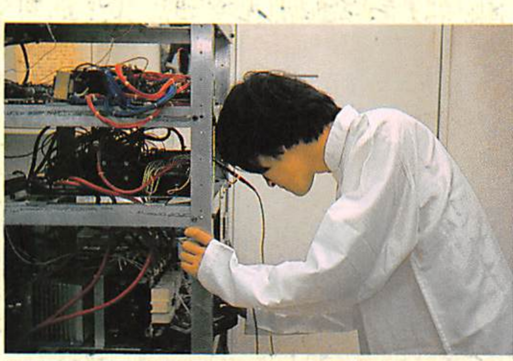
真理の流布にアニメやマンガも



生命科学と真理の融合がイニシエーションを生み出す



現代に復活した出家教団。日々、真理を学び、煩悩滅尽の修行に励む



21世紀の救済を目指し、ハイテクもふんだんに



尊師の瞑想体験からアストラル音楽も作られる

座談会

弟子達が語った、愛と慈悲の肖像



尊師――それは私達の至上の宝

出席者
マハー・ケイマ正大師
ヤソーダラー正悟師
マイトレーヤ正悟師
マンジュシュリー・ミトラ正悟師
ミラレパ正悟師
サクラー正悟師
キサーゴータミー正悟師
プンナ・マンターニプッタ正悟師
ウッパラヴァンナー正悟師
アパーヤージャハ正悟師
ソーナー師
マハーカッサパ師
ティローパ師

グル（宗教上の精神的・霊的指導者）と弟子――それは、会社の上司と社員の関係とも違い、学校の先輩後輩関係とも違う、宗教上の特別な関係をいいます。弟子はグルにそのすべてを委ね、帰依し、グルは弟子に何ものにも替え難い宝――解脱・悟りを与えるのです。いにしえより、真理とはこのようなグルと弟子の関係の上に連綿と伝えられてきました。

しかし、その本当の宝を与えられるグルはなかなか存在するものではありません。解脱・悟りを真に知り尽くした覚者（仏陀）との出会いは、奇跡と言えるほど稀なことなのです。

私達のグル、麻原彰晃尊師は、まさに真のグルと呼ぶにふさわしい真理勝者（如来）です。かつて、覚者サキャ神賢（釈迦牟尼）のもとにサーリプッタ、マハーモッガラーナ、ヤソーダラー、ケーマーといった大勢の弟子が集ったように、今尊師のもとには真理を求める多くの弟子達が集っています。

ここでは、尊師の高弟の方々に「真理勝者・尊師」について語っていただきました。大地のように広く、海のように深く、澄んだ湖のように透明な、一言では語り尽くせない尊師のお姿の一端でもその言葉から感じ取っていただければ幸いです。

◉大きな海・最高の教師――グル麻原尊師

――それでは、初めに、「皆さんにとってのグル・尊師とは」ということからお話をお聞かせください。

●マハー・ケイマ　最高の心の完成者で、すべてを超越なさった方であるというのを感じます。ほんとにすべてが静まった、私達を映し出す、まさに鏡です。ですから、尊師の前に出たときには、ありのままの自分が映し出されるので、非常に楽を感ずるんです。私自身よりも私のことをよくご存じな、表現すれば、「海」ですね。大きくて、何でも取り込んでしまう、包容力のある海ですね。

●マンジュシュリー・ミトラ　自分を完全に委ねることのできる唯一の存在ですね。よく学校などで、「尊敬できる人はだれですか？」と質問されますけれども、私はだれも



ヤソーダラー正悟師

本名・松本知子（32）。尊師の弟子であり、妻でもある。
88年、本格的な修行に入りわずか1年あまりで
クンダリニー・ヨーガ、マハー・ムドラーを成就。
絵画、文章など多彩な活躍はつとに有名。
尊師との間に4人の娘がいる。
著書に『転換人生』（オウム出版）がある。



マハー・ケイマ正大師

本名・石井久子（30）。元日産火災勤務。
84年修行の道に入り、87年クンダリニー・ヨーガ、
88年マハー・ムドラーを成就。仏典にいう供養値魂（阿羅漢）に至る。
「水中エアータイト・サマディ」「シャクティーパット」と、
尊師の救済活動に多大なる貢献を果たされ、
89年大乗のヨーガを成就。著書に『飛翔』（オウム出版）がある。



いなかったんですね。初めて尊師に会って、その深さとか豊かさに触れて、「ああ、これはすべて投げ出してしまえる存在だな」と感じました。最高の教師、最高の上司、といった感じです。

●ヤソーダラー　前生でも何回も最終解脱をされて救済活動に力を尽くしていらっしゃったせいか、ものすごく器が大きいんですね。ですから、私自身もすっぽりと入ってしまう、絶対的な信頼を寄せることのできる人だと思います。「四無量心（しむりょうしん）」という言葉一つ取っても、生半可な四無量心ではなく、自分が死んだとしてもそれを成し遂げるというくらいの四無量心なんです。

――インドでは、グル探しに一生をかける人もいるという話がありますが、皆さんの場合もそうだったのでしょうか。

●ティローパ　私の場合は、尊師がいらっしゃったからグルができたという感じですね。「この世はどうなってるのやろう」「絶対的なものって、あるんやろうか」という疑問が、尊師にお会いして、それがズバッと解けましたね。私にとっては、生きる目的、なぜ自分が存在しているのかを教えてくれる絶対的な方ですね。

――尊師との出会いというのは、また様々だと思うのですが、奥様でもいらっしゃるヤソーダラー正悟師、それからウッパラヴァンナー正悟師、いかがですか。

●ヤソーダラー　尊師は高校時代から、「こういう名前の人と結婚する」と、私のことを言われていたそうです（注……その頃、尊師は九州、正悟師は関東にいらして、全く面識がなかった）。何か普通じゃない、特別な出会いでした。しかも、尊師は「これは前生からの約束だった」と言われるんです。時間的なこと、空間的なことを含めて、並の人間では推し量れないところにいらっしゃるという感じですね。

●ウッパラヴァンナー　私の場合、今から四年前、友人だったマイトレーヤ正悟師に紹介されて、初めて尊師にお会いしました。その頃私は、死ぬのがどうしても嫌で、死んだ後、一人になるのが不安でした。でも、尊師の説法を聴いて、肉体を捨てても意識は存在していて、尊師を追い求める限り、常に一緒にいてくださり、絶対に間違いのない道を照らし出してくださるということを知りました。絶対の安心感――尊師に出会えたことは、これ以上にない至福だと思いますね。

◎神通・神秘――偉大な覚者の証

――マハー・ケイマ正大師は、「水中エアータイト・サマディ」、そして尊師の後を継いでの千五百五十五回のシャクティーパットという経験をお持ちですけれども、それを通じて特に感じていらっしゃることは何でしょうか。

●マハー・ケイマ　「サマディ」では、尊師の言われた瞑想法、瞑想技法を頼りに臨む以外にない、とにかく尊師ができるとおっしゃっているので、じゃあ尊師の言われたとおりに瞑想法を行なうしかないと、もう必死にグルを意識して、シヴァ大神を意識して行なった結果、呼吸停止が起きたということですね。だから、すべて、グルのエネルギーによって引き起こされたということが言えると思います。

シャクティーパットに関しては、受けたカルマを自分自身で浄化することが非常に難



マンジュシュリー・ミトラ正悟師

本名・村井秀夫（32）。元神戸製鋼勤務。
87年出家。オウムの科学部門の中軸。
88年クンダリニー・ヨーガ、89年マハー・ムドラーを成就。
智慧を司る供養値魂として、
博識と恵まれた資質を活かした今後の活躍も期待される。



マイトレーヤ正悟師

本名・上祐史浩（28）。元宇宙開発事業団勤務。
87年クンダリニー・ヨーガ、
89年マハー・ムドラーを成就。
論理的な思索力、天才的な修行者ぶりは有名。
伝説の未来仏の名前にたがわぬ活躍は、
信徒・サマナの良きお手本である。





しくて、惛眠状態や健忘症になってしまったりというひどい状態を、尊師がイニシエーション、もしくはマハー・ムドラーによって落としてくださいました。また、シャクティーパットは、見た目では私が行なっているんですけれども、実は私がグルを観想することによって、グルのエネルギーが入ってきて、相手の方に移入されるんですね。

――離れていても、神秘的な力によってつながっているんですね。

●**ヤソーダラー**　本当にすべての弟子に目が行き届いているという感じなんですよね。一つ面白い話がありまして、性欲の戒を破った人がいたんですね。そのとき尊師は、「アストラル界で、それが噂になってるぞ」と電話をして本人に確認したことがあったんです。だから、それを考えると、どんなに尊師から遠いと思われているサマナがいたとしても、ちゃんと尊師は見ているんだと。そのことを忘れてはいけないと思いますね。

●**マイトレーヤ**　そういう天耳通的な話では、やっぱり、カール・リンポチェの死を予言なさってインドへ向かったというのは完全な予知能力でしたね。

●**マハーカッサパ**　あれはすごいね。

●**マイトレーヤ**　適中した。みんな一緒にインドに行ったけど。あれはすごかった。

あと、サマナとしては、おかしくなった自分の体を治してもらえるというのが結構ありますね。マハーカッサパ師なんか、熱が出たときに……。

●**マハーカッサパ**　治してもらいましたね。尊師がエジプトに行かれてる間に、かなり高い熱が出たんだけれども、そのときも別に電話で何かお伝えしたわけでもないのに、エジプトからお帰りになって玄関から入るなり、いきなり僕のところに来てパッと頭に手を当てて浄化してくださったんだよね。後から思うと、本当に弟子の状態を遠隔で察知して、対処してくださったということなんですね。相手のコーザルのデータを読み取る力、そういう神秘性というものは数限りなくありますね。

●**ミラレパ**　それは尊師の心が完全に透明で、コーザルをすべて見通すことができるからだと思います。例えば、ある博識な師が一つの問題に直面して、心の引っかかりや経験不足のために答えが出せないとき、尊師は、その師のコーザルを読み取って適切な指示を与えられます。つまり、尊師は一見すると「ずぶの素人」に思われるんですが、実際はすべてのワークにおいて「プロフェッショナル」だと言えますね。

また、尊師の身につけていらっしゃる神通はたくさんあるんですが、単なる超能力と違うと感じるのは、その神通をすべて利他のために使っていらっしゃる、つまり、尊師は自分のためではなく、常に他人のために存在されているということですね。

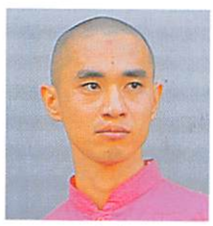
●**マイトレーヤ**　大乗の到達真智運命魂（菩薩）が、甘い蜜のような、非常に心地良いエネルギーで周りにいる人達を和ませるというのがありますが、いろいろ心の中で葛藤していても、尊師に会ったら心の中が変わってしまうということがありますね。

●**アパーヤージャハ**　『サンデー毎日』でオウムが批判されたとき、まだ出家前だった私自身非常に揺れてしまったんですね。周りからいろいろ言われて。そういう状態のとき、ちょうど尊師のシークレット・ヨーガを受けることができたんです。いろいろなそれまでの疑問点とかが尊師の一言ですぐに納得できて、本当に心が強くなり明るくなりましたね。



サクラー正悟師

本名・飯田エリ子（30）。元日産火災勤務。
尊師の最も古くからの弟子の一人。
88年クンダリニー・ヨーガ、
90年マハー・ムドラーを成就。
その親切な指導には定評がある。
ホーリーネーム「サクラー」は
「天眼第一」と称された仏弟子に由来する。



ミラレパ正悟師

本名・新実智光（27）。元マルサンアイ勤務。
87年、クンダリニー・ヨーガ、
90年マハー・ムドラーを成就。
本部支部での活躍は有名で、
そのバイタリティーあふれる優れた行動力には定評がある。





●マハー・ケイマ　シークレット・ヨーガでそういう方は多いですよね。尊師のお話を聞くだけで完全に幸せな気分になってしまうという。結局、シークレット・ヨーガは一対一ですから、あれはイニシエーションですよね。

◉愛と慈悲――弟子のためには命も……

――尊師の人間性という点での魅力はどこにあると思われますか。

●マンジュシュリー・ミトラ　いや、人間性というのはかなり無理があると思いますね。人間にできないことをおやりになっているわけですから。特に、尊師が実践なさっている愛と慈悲は、私達にはとてもまねができません。例えば、失敗をしないと懲りないということで、尊師はわかっていてわざと弟子に失敗させることがありますね。

　八九年、インドで私は現地の交通手段として車を選んだんですが、非常な猛暑で冷房もほとんど効かず、何十時間も炎天下の車の中で耐えざるを得ない状況になってしまいました。ちょうど尊師のお体が悪かったのですが、具合が一層悪くなってしまったんです。「何度か涅槃しかけた」と後でおっしゃいました。自分の生命に対して何ら愛着がないんですね。身をもって、弟子達の心のけがれ、あるいは無智について、教えてくださる。そのように弟子を成長させるためなら、何らご自身の生命をも顧みられないところは、むしろ私には恐怖ですね。

●ソーナー　そうですね。まだ私が信徒のときのセミナーでのことですが、山の中にいた捨て猫に、尊師は大声で、「頑張れよ、負けるなよ！」と叫んで、励ましていらっしゃるわけですね。すべての魂を本当に人間と同じように慈しんでいらっしゃる尊師の心が感じられて、今でも印象に残っています。

　また、修行の途中で断念して落ちていった人達に対して、「私は、彼らに今でもエネルギーを送り続けているんだよ。」と言われたことがあるんです。一度でも縁のあった魂とは、ずっと何らかの形で縁を持ち続けていかれる心。確かに、一度落ちたサマナで

どうぞ涅槃なさらないで



林　郁夫
医師・東京都

　尊師は弟子や信徒の心の成熟、霊性の向上のために、ご自身の修行で培われた清らかで純粋なエネルギーを放出して、逆に私達の汚れたカルマ、エネルギーを吸収し、消滅してくださいます。

　ただひたすら、私達修行途上にある魂を引き上げることを思念してくださる尊師。この欲六界に肉体を保たれておられるのはおつらいでしょうが、どうぞ涅槃なさらないでください。

広大無辺な愛



柴田俊郎
公認会計士・東京都

　自らの意思で苦界に生を受け、偉大な救済の道を歩む。いかなる困難が待ち受けていようとも、それを乗り越えていく。すべての魂を慈しみ、他のために自己を犠牲にすることを厭わない。論理的で、かつわかりやすい、極めて高度な説法、効果的な多くのイニシエーションと完璧な修行法の伝授。

　麻原尊師は、偉大な霊的導師、至高の魂、決して裏切ったり見捨てることのない広大無辺な愛をお持ちの真理勝者です。



プンナ・マンターニプッタ正悟師
本名・大内利裕（38）。元鍼灸師。
85年、神秘の石「ヒヒイロカネ」が縁で尊師と出会い、
翌年出家。
88年クンダリニー・ヨーガ、
90年マハー・ムドラーを成就。
その誠実さと人を優しく包み込むような温かさは
多くの人々を魅了している。



キサーゴータミー正悟師
本名・山本まゆみ（36）。元日産生命勤務。
86年出家。尊師との縁も深く、
マハー・ケイマ正大師、サクラー正悟師と共に、
オウムの基礎作りに寄与する。
90年にマハー・ムドラーを成就。
温かさと厳しさを兼ね備えた指導ぶりは
高い評価を得ている。



も、心を改めれば、尊師は、即受け入れてくださいますよね。そのとらわれのない心に感激しましたね。

●**プンナ・マンターニプッタ**　尊師がすごく偉大だな、素晴らしいなというのは、なさっていることの一つ一つに感じますね。

　例えば、やっぱり修行者とはいっても、だれしも多少は自分の時間ってあるものですよね。修行以外のことを思ったり、あるいはちょっと気を抜いたりとか。でも、尊師を拝見していると、自分の時間が全くないですね。寝ても覚めても、自分のすべてを救済に充てていらっしゃるでしょう。

――だからこそ、これだけ多くの弟子を導くことも可能なんでしょうね。

●**キサーゴータミー**　ほんと、いつも思うんですが、尊師は、弟子を引っ張るいろいろな手を持っていらっしゃいますよね。三百六十度、どの方面にいる弟子に対しても、引き上げるための縄を投げられるなと。また私達は、非常に快調に修行しているときもあれば、不調なときもありますよね。その時々を見計らって、例えば、手綱を緩めたり、引っ張ってみたりと、非常に巧みにやってらっしゃると思うんですね。その奥深さは計り知れませんね。

◉イニシエーション――覚者あってこそ

――尊師を語る上で忘れてはならないものに、「イニシエーション」があると思います。その背景にも深い愛があるんですよね。

●**ティローパ**　そうですね。シャクティーパットをなさっていたときも、待っている人一人一人に、本当に一生懸命、全力でエネルギーを移入されているんです。普通だったら、何百人もいたら、どこかで手を抜きますよね。それが、全くないんです。どれだけ疲れていても、弟子の修行の向上を考えていらっしゃる、その尊師のご姿勢。近くにいるだけで、現代の覚者だということがわかりますね。

●**ミラレパ**　私達は修行を完成させるために、自分に欠けているものを補わなくてはならないのですが、それを自分自身でつかみ取るというのは、至難の技なんですね。もし自力でやろうとしたら、何千生、何万生とかかってしまう。しかし、尊師のお力によって、それが速やかに、可能性のある方は、例えば一生とかで成就、あるいは最終地点まで導かれるんですね。つまり、イニシエーションによって、その人に欠けている部分を尊師が与えられるわけです。

　よく尊師の口癖に、「グルというのは弟子のためにだけ存在している」というお言葉がありますが、端的にそれを表現していると思いますね。

●**ヤソーダラー**　私が特に、サマナとか信徒さんに言いたいのは、本当の覚者がいらっしゃるから、尊師という覚者がいらっしゃるから、こういうイニシエーションが成り立っているんだということですね。本物のグルがいなかったら、イニシエーションというのはあり得ないし、ただの儀式で終わってしまうから。私達、実際にイニシエーションを受けられる者は、それがどんなに一人一人のステージを上げてくれるか、あるいは解脱に向かう道筋を作ってくれるものであるか、あるいは心を安定させてくれるものである



アパーヤージャハ正悟師
本名・青山吉伸（31）。弁護士。
81年京都大学在学中に、同期最年少で司法試験に合格。
89年出家後も、1カ月でクンダリニー・ヨーガ、
90年にはマハー・ムドラーと次々と成就。
天才的な修行者ぶりと穏やかな人柄は
多くの信徒・サマナから愛されている。
著書に『真理の弁護士がんばるぞ!!』（オウム出版）がある。



ウッパラヴァンナー正悟師
本名・都沢和子（25）。元住友化学勤務。
87年、出家後わずか2カ月でラージャ・ヨーガ、
88年にはわずか3日間でクンダリニー・ヨーガを成就。
恵まれた天性の素質は90年マハー・ムドラーの成就へと結実した。
優しさと強さを兼ね備えた若さあふれる指導は、
信徒・サマナから絶大な支持を得ている。



か、心のプロセスを進めてくれるものであるか、そういうことを身をもって体験しているわけです。ですから、その点に関しては、今の時代に、尊師と共に修行していられる、そばにいられる、巡り合うことができたこと自体、本当に幸せなことだと思います。

――イニシエーションがなければ、修行の向上はとても考えられませんね。

●**サクラー**　そうですね。やっぱり、瞑想して努力しても、自分の力だけではなかなかコーザルの光に到達することができないんですね。でも、例えば、尊師のイニシエーションを受けることによって、熱と振動と光をいっぺんに体験してしまう。それはすごいと思います。

●**ウッパラヴァンナー**　私の場合も、イニシエーションなくして、今の私はないと思います。神秘体験があって、そこでやはり言葉だけではなく、神秘性というものを自分で体験して、根本になる信が芽生えてくるんだと思います。

●**マハーカッサパ**　僕の場合、イニシエーションを受けると、まず、心が軽くなるんですね。それによって、修行に対して前向きに取り組める。何か、僕には「プラグをコンセントに差し込む」というイメージがあるんです。そのイニシエーションを受けた途端に、電流がバーッと流れてきて、いろんな活力がわいてくる。

●**マイトレーヤ**　やはり他の聖者と比べても、イニシエーションを身を削っても与えたいという気持ち、自分の生活のすべてをかけて与えたいという気持ちは、私はやはり尊師から一番強く感じますね。

◉至上の宝――それが尊師

――本当に、まだまだ未熟な私達としては、何とか尊師の望んでいらっしゃる弟子になりたいものですね。

●**サクラー**　修行が進まないとき、どうして自分って、こんなに素質がないんだろうかと、ずいぶん悩んだものですけれども、尊師は最近、「修行の素質というのは、本当に九九パーセントの努力なんだ」とおっしゃるんですね。例えば、一つ教えてもらった修行に、どのくらい日々、力を入れて努力することができるかということで、その人の素質、機根というものが備わってくるということを、最近実感しています。

●**ティローパ**　加えて私が皆さんに言いたいことは、グルほど大切なものはないということですね。グルが得られれば、すべてが得られます。多くの方がもっと教学して、早く悟っていただきたいと思います。真のグルとの出会いは、何億分の一の確率ですから、早く自覚しないと本当にもったいない。それが実感です。

――皆さん、どうもありがとうございました。

【注釈】

*四無量心――慈愛・聖哀れみ・称賛・聖無頓着という純粋に他を利する実践。

*カール・リンポチェの訃報――八九年五月、チベット仏教カギュ派の総帥で、尊師の一つの過去世のグルであられたカール・リンポチェの訃報を、尊師はあらかじめ天耳通で察知しインドへ向かった。事実、リンポチェは尊師が察知されて三日後に亡くなられた。通信事情の悪い現地に外国からの弔問客としてはいち早く駆け付け、そのあまりにも早い到着はリンポチェの弟子達を驚かせた（詳しくは『マハーヤーナ』NO23参照）。



ティローパ師
本名・早川紀代秀（41）。元都市計画業。
「龍宮の宴」「水中エアータイト・サマディ」
「富士山総本部道場建設」と、
オウム真理教の救済計画において
重責をこなし続けている。
88年クンダリニー・ヨーガを成就。
その到達真智運命魂としての資質は、
サマナ・信徒の良きお手本である。



マハーカッサパ師
本名・岐部哲也（35）。元デザイナー。
尊師の著書のデザインをすべて手がけている。
88年クンダリニー・ヨーガを成就。
その強い意志力と誠実な人柄は
尊師からも高く評価されている。



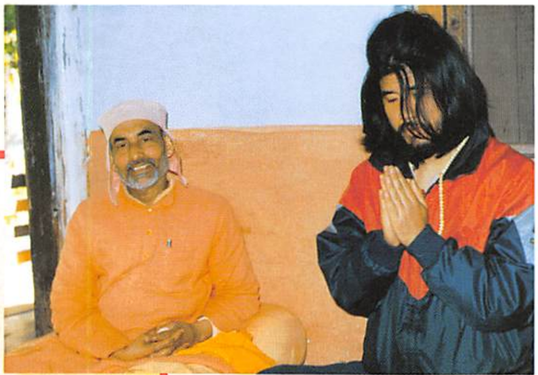
ソーナー師
本名・大内早苗（33）。
元エステティシャン。
兄であるプンナ・マンターニプッタ正悟師に
導かれて、尊師の弟子になる。
87年クンダリニー・ヨーガを成就。
その神通力、支部での活動には定評がある。

交流——法輪は世界を巡って

一人でも多くの人々に最高の修行法を——尊師の思いは、絶えずご自身の修行に対する厳しい検討を怠らせませんでした。最終解脱なさった後もそれは変わらず、修行の本場インドに度々赴かれ、たくさんの聖者と会談されたり、日本には伝わっていないいにしえの経典を参照なさったりして、ご自身の修行体験をしっかりと検証なさったのです。しかし、それらは尊師の体験を裏付けたり、具体的な修行体系の示唆となることはあっても、尊師ご自身が経験された以上のものはなかったのです。

最高の修行法——それはすべて、尊師の中に内在されていたのです。





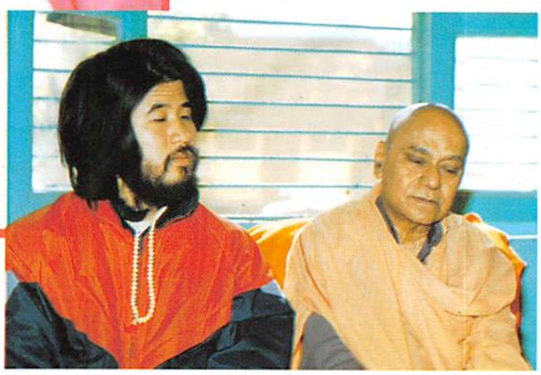
19世紀の偉大なヨーガ修行者ラーマ・クリシュナ・パラマハンサの孫弟子にあたるスワミ・アカンダナンダと（86年2月）。



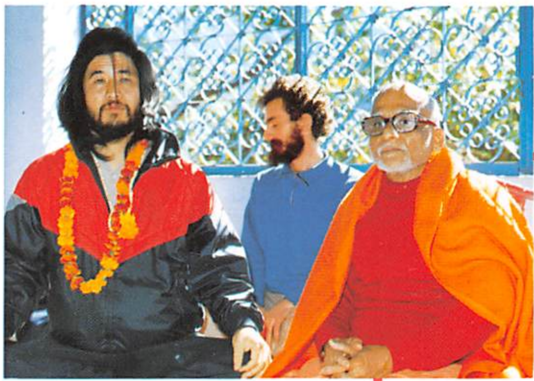
聖者スワミ・ビハール・マハラジと（86年2月）。



ジュニアーナ・ヨーガの指導者、スワミ・ダイヤナンダジと（86年2月）。



聖者スワミ・チタナンダと（86年2月）。

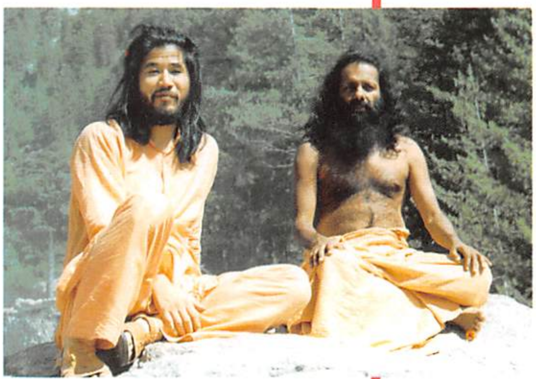


聖者スワミ・クリシュナナンダと（86年2月）。

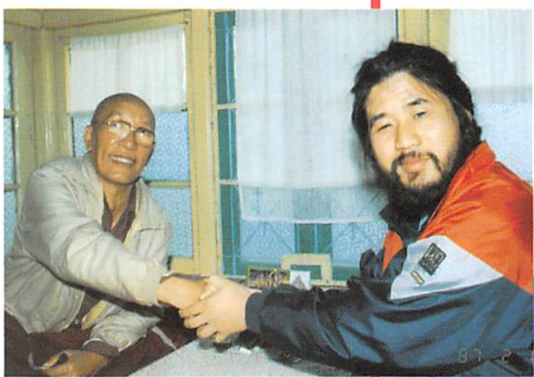
観音様の化身ダライ・ラマ法王との会談（87年2月）。



「オウムは宗教的・社会的活動を通じて、人々の覚醒を促すよう努力する団体です。また、亡命中の私達仏教徒に常に多額の布施をしてくださっています。このオウムの援助に対して、心から感謝いたします。」



日本でも有名な超能力者パイロット・ババと（86年7月）。



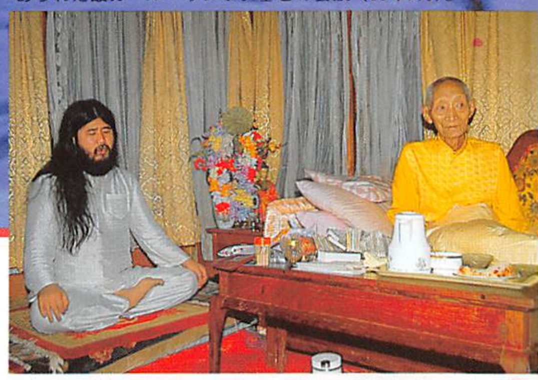
チベット仏教の成就者カムトゥール・リンポチェとの会談(87年2月)。
「私は尊師の献身的な心・親切心・寛大さ・無私無欲の心など、仏教を修める者としての生来の資質を深く称賛いたします。」



熱のヨーガの成就者ロブサン・テンジン師と（87年2月）。

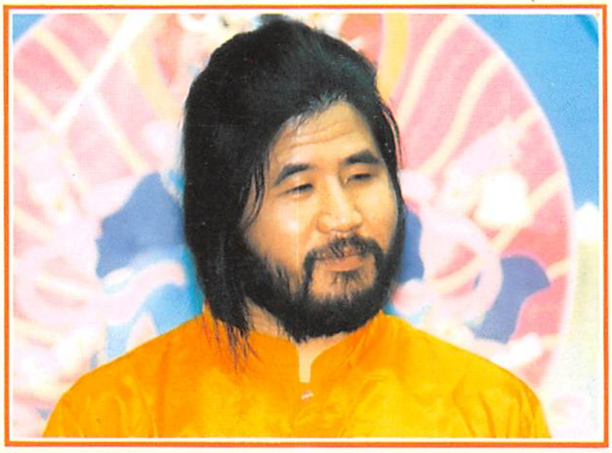


チベット仏教カギュ派の総師で、尊師の一つの過去世のグルであられた故カール・リンポチェとの会談（88年7月）。



「今生の私達は大きな幸運に恵まれています。それは、覚者が現われて法を説き、その法が今なおここに存在している時代に転生したからです。さらに、皆さんは偉大な仏教の師に巡り合い、教えを受けています。それが皆さんのグル、麻原彰晃尊師です。
尊師は偉大な智慧と、偉大な法の理解、そして大いなる愛、すべての者を助けようという願望をお持ちです。」

麻原彰晃尊師・救済の歩み



1984年 2月	オウム真理教の前身「オウム神仙の会」を創始（東京都渋谷区）。
86年 3月	記念すべき第1作『超能力・秘密の開発法』発刊
86年	修行の本場インドを訪れ、スワミ・アカンダナンダ、 パイロット・ババといった聖者達と交流を持つ。
86年12月	『生死を超える』発刊
87年 2月	大阪支部設立。以後、今日までに全国に16カ所、海外に2カ所の支部を構える。
87年 2月	インド、ダラムサラにて、チベットの政治・宗教の最高指導者ダライ・ラマ法王と会談。 以後親交を結ぶ。
87年 3月	『超能力・秘密のカリキュラム』発刊
87年 7月	エジプトを訪問。古代エジプトのクンダリニー・ヨーガ文明の謎を解明し、 数々のイニシエーションを持ち帰る。
87年 7月	「オウム真理教」と改称。東京都世田谷区に本部移転。 監修書月刊誌『マハーヤーナ』刊行開始。
87年 8月	『イニシエーション』発刊
87年11月	東京都労音会館にて「アストラル・ワールド・コンサート」を開催。 初めてアストラル音楽を一般に公開した。
87年	この年、8名の弟子を解脱に導く。
88年 2月	『マハーヤーナ・スートラ』発刊
88年 2月	大阪サンケイホールにてアストラル音楽と舞踏を織り交ぜた「龍宮の宴」を3日間にわたって開催。
88年 5月	静岡県富士宮市において、瞑想の究極状態「水中エアータイト・サマディ」を敢行。見事成功する。
88年 6月	『生死を超える』改訂版発刊
88年 7月	インド訪問。ダライ・ラマ法王のイニシエーションを受ける。 また、一つの前生のグルであられたチベット仏教カギュ派の総帥カール・リンポチェ（故人）と会談。
88年 8月	『イニシエーション』の英訳版『SUPREME INITIATION』発刊
88年 8月	富士山総本部道場完成。
88年	この年、44名の弟子を解脱に導く。
89年 2月	『滅亡の日』発刊
89年 5月	『滅亡から虚空へ』発刊
89年 8月	オウム真理教が東京都より宗教法人として認証される。
89年 9月	この頃より消費税、医療といった社会問題について積極的に取り組む。 また、殺伐とした世相に潤いを与える目的で瞑想音楽を中心とした「ザ・コンサート」ツアーを開催。
89年11月	西ドイツ訪問。西ドイツ連邦科学省企画部長エンダーライン氏、西ドイツ社会民主党ビューヒラー氏と会談。 日本とドイツの教育問題、ドイツの再統一問題、社会主義の将来などについて語り合う。
89年	この年、242名の弟子を解脱に導く。
90年 3月	覚者サキャ神賢の教えを日本で初めて忠実に再現した『原始仏典講義 一』発刊
90年 7月	オウムの医学理論にのっとった医療機関、「オウム真理教附属医院」を東京都中野区に開設。
90年	この年、35名の弟子を解脱に導く。
91年 3月	全国主要都市にて、アストラル音楽・舞踏・朗読・照明によるオペレッタ 「死と転生――麻原彰晃のサマディの世界」を開催。



AUM SHINRIKYO

